別紙様式１

令和７年度　指定管理者運営状況点検・評価シート

対象施設名	徳島県立牟岐少年自然の家	施設所在地	海部郡牟岐町大字灘字東谷１１６－３５
指定管理者名	ＯＫスポーツクラブ株式会社	指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
施設所管課	生涯学習課	【連絡先】	088-621-3147

１　施設の概要

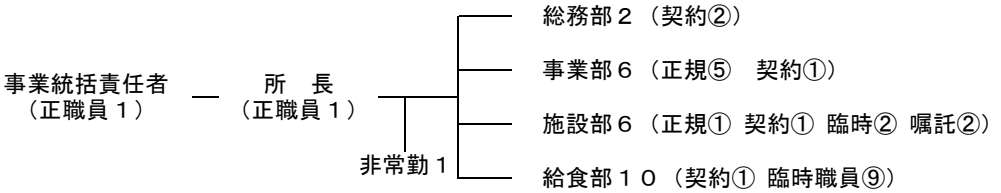
設置年月日	昭和60年7月1日
設置目的	少年を自然に親しませ、自然の中での集団宿泊生活を通じて、その健全な育成を図る。
施設内容	管理棟、宿泊棟、プレイホール、海の学習室、プール棟等
利用料金等	基本料金：無料(教育課程)、110円(その他)、宿泊室：110円(教育課程)、450円(少年)、650円（その他）
開館日・休館日等	休所日：8月12日～8月15日、12月28日～12月31日、1月1日～1月4日

２　指定管理者の業務

指定管理者の業務内容	(1) 牟岐少年自然の家の設置及び管理に関する条例第３条各号に掲げる事業の実施に関する業務 (2) 少年自然の家の施設等の維持管理に関する業務 (3) 少年自然の家の利用の許可に関する業務 (4) 少年自然の家の利用料金に関する業務 (5) その他少年自然の家の管理に関し、教育委員会が必要と認める業務

３　施設の管理体制

管理体制	正規職員　8名　　契約職員　5名　　非常勤　１名　　臨時職員（嘱託2含）13名　　計27名



４　施設の利用状況

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
利用者数（人）	７年度	475	1,323	1,499	1,656	557	1,084	1,543	875	342	533	305	312	10,504
	前年度	414	1,111	1,525	1,408	496	1,467	954	1,493	416	587	332	515	10,718
	前々年度	275	1,573	1,324	1,304	1,016	1,536	1,599	1,110	305	544	258	382	11,226

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
月別利用料金収入（千円）	７年度	44	186	133	344	361	128	129	111	94	45	69	51	1,695
	前年度	186	159	123	207	376	182	86	209	112	51	69	94	1,854
	前々年度	27	202	134	224	546	179	227	187	73	81	32	63	1,975

施設毎利用料金収入（千円）							計
	７年度						
	前年度						
	前々年度						

５　収支の状況

（単位：千円）

項　目			令和７年度	令和６年度（前年度）	令和５年度（前々年度）
収入	指定管理料		78,118	75,721	76,237
	利用料金収入		1,695	1,854	1,975
	自主事業収入		2,804	2,051	35,608
	施設の運営にともなうその他の収入		25,918	26,504	
	計		108,535	106,130	113,820
支出	固定費	人件費	46,928	46,466	46,312
		光熱水費	10,557	10,487	7,777
		事務所運営費	11,389	9,025	10,540
	運営費		20,977	19,990	27,873
	維持管理費	清掃費（人件費（清掃員）含む）	2,360	2,279	1,669
		施設警備費（人件費（宿直員）含む）	1,402	1,366	1,380
		設備運転等管理費（人件費（設備管理担当員）含む）	8,730	9,265	9,852
		メーカー等発注業務費	2,848	2,778	2,754
		その他維持管理費	10	7	21
		修繕費	3,899	3,706	3,797
	計		109,100	105,369	111,975
収支			-565	761	1,845

６　コスト削減・サービス向上に関する取組状況

コスト削減の取組	①仕事のマルチ化、外部委託業務の仕様内容の見直しによるコストの削減 ②蓄積された経験ノウハウを活用した効果的効率的勤務ローテーション計画の策定と実施 ③修繕履歴等の情報のシステム化による設備機器の故障時の迅速な対応・長寿命化 ④職員による施設設備の修繕・修理の実施 ⑤職員による敷地内の植栽管理業務の実施 ⑥省エネルギー・資源の節約による光熱費の削減 （デマンド監視システムの導入・省エネルギー型機器の導入） ⑦コピー・印刷用紙の節約による事務費の削減 ⑧地産地消運動の推進による新鮮で低コストの食材の調達 ⑨裏紙やチューブファイルの再利用など経費の節約・削減
サービス向上の取組	①年間を通した多彩な主催事業（土・日等の休日実施）の開催 ②１団体での同時多種目活動の実施と活動時間の融通化 ③トレーニング機器を地元住民にも開放し、健康目的に合ったプログラムの開発と提供 ④食堂にて健康メニューの提供、地産地消運動の推進 ⑤接客マナーの向上や活動の安全性を高める職員研修の実施 ⑥ＨＰやＳＮＳによる広報（活動内容、四季折々の風景、出来事、雑感等） ⑦新しいニーズに対応したオンライン学習プログラムの導入

7　自主事業の取組状況

自主事業取組状況	○13の主催事業を実施（中止を除き、のべ20日間実施） （事業名）「春るんるん」「海家族バンザイ」(中止)「めっちゃ夏遊び」 「牟岐の海を満喫しよう！」「親子ハッピーハロウィン」「オータムフィッシング」 「冬の自然を楽しもう」「親子で牟岐少年自然の家体験学習」「わんぱく冒険王」 「親子で体験！海辺の環境学習　春」(中止)「親子で体験！海辺の環境学習　夏」 「親子で体験！海辺の環境学習　秋」　「親子で体験！海辺の環境学習　冬」 ○親子が共に自然に親しむことによる子育て支援事業や、渡船組合･日本釣振興会と連携した稚魚放流イベント、日本財団船の科学館海の学びミュージアムサポート助成事業を活用した海での体験活動等、新たな分野も取り入れながら牟岐少年自然の家が持つ機能を十分に活用した主催事業が実施された。 ○プログラムの内容において創意工夫がなされ、初めての参加者にもリピーターにも満足度の高い活動が実施された。

８　管理運営業務に係る点検・評価

項　　目	評　価	点　検　結　果
①利用者ニーズの把握・分析と利用促進 ・利用者ニーズの把握 ・利用者ニーズへの対応 ・施設の利用促進	A	・利用者アンケートを実施してデータ化し、ニーズの分析と把握に努め、更なる利用促進につなげている。 ・利用者からの要望へ回答するとともに、県と協議しながら対応している。 ・牟岐ならではのプログラムを提案するとともに、ＳＮＳ等も活用して利用促進を図っている。
②自主事業 ・計画した自主事業の実施	A	・地域の特性を活かし、環境学習の講座や地元のスペシャリストから学ぶ講座、観光協会等と連携したイベントを開催し、新規利用者の開拓及びリピーターの確保に努めている。 ・悪天候により計画どおりではなく中止となった事業もあるが、創意工夫を凝らした多彩な主催事業が展開できている。 ・公式YouTubeチャンネルに「海の学び動画」を公開しオンライン学習プログラムの充実に取り組んでいる。
③適正な維持管理 ・施設の保守管理・修繕 ・年間作業計画に基づく適正な維持管理 ・県備品等の適正な管理	A	・年間作業計画に基づき点検が的確に実施されている。 ・故障時の迅速な対応を行うことにより、機器の長寿命化に向け努力をしている。 ・老朽化のため使用不能となった備品に対し、購入や廃棄等を県と協議の上、迅速に行っている。 ・補修箇所は、早急に職員で可能な限り修繕を行っている。 ・備品一覧表を作成し、備品の管理を徹底している。
④収支計画 ・収支計画の達成状況 ・コスト削減の状況 ・外部委託の状況	A	・収支計画に合致した運営ができている。 ・仕事のマルチ化を推進するとともに、可能なところは地域団体へ委託業務している。 ・デマンド監視システムや省エネルギー型機器の導入、こまめな節水・節電対策等により、熱水費の削減に努めている。 ・職員で施設内の修繕や修理を行うなど、徹底した現場経費のコストダウンを進めている。
⑤管理運営体制等 ・管理運営業務計画書 ・職員の配置、研修計画 ・諸規程の整備 ・利用料金の徴収、減免 ・モニタリングの実施状況	A	・運営協議会や第三者運営委員会の意見を運営に反映し管理運営業務計画書に基づく業務が厳格に行われている。 ・法で定める有資格者以外に、より質の高い業務遂行が可能な各種有資格者や免許所有者を有している。 ・職員に対する専門教育を継続的に行うとともに、緊急災害時の訓練を地元関係団体とともに、定期的に実施している。 ・きめ細かなセルフモニタリングが実施され、毎月、的確に報告されている。
⑥職員体制 ・職員の労働条件	A	・事業計画書に示された労働条件を満たす勤務ができている。 ・地元出身者の雇用を優先的に行っている。 ・勤務シフト表、タイムカードで管理をしている。
⑦地域への貢献 ・地元雇用の状況 ・地元企業への業務委託	A	・職員は積極的に地元から雇用し、約９割が地元雇用である。 ・業務委託は最優先に地元企業に委託している。 ・トレーニングルームを地元住民に無料開放している。
⑧地域との連携 ・地元団体等との連携	S	・第三者運営委員会を年２回開催し、地元の関係者から施設の運営に関して率直な意見をいただき、改善を図っている。 ・地元団体等と連携した自主事業の開催などを通して、地域の活性化を図っている。 ・地元の学校や住民団体へのプールやグランドの貸出

項　　目	評　価	点　検　結　果
⑨安全管理 ・安全管理体制、事故防止体制 ・災害等発生時の対応体制 ・マニュアルの整備、職員教育 ・個人情報保護への適正対応	A	・県教委、牟岐町、牟岐町自主防災連絡協議会、指定管理者の４者で、「避難所等施設利用に関する協定」を締結している。 ・日々のきめ細かい見回り点検による安全性の確保に努めるとともに、職員の資質向上を目ざした研修、地域団体や入所団体などと連携した防火・防災等の避難訓練を計画的に実施している。 ・防災のまちづくり支援のため、「学校・家庭・地域連携支援スペシャリスト」の認証を受けた職員を配置している。 ・「牟岐少年自然の家個人情報保護方針」にもとづき適切に管理されている。 ・消防や海上保安部との連携を図り安全管理に努めている。
⑩環境への配慮 ・環境対策の状況	A	・自然環境に配慮した洗剤の使用や節水節電など環境への負荷を軽減する取組が行われている。 ・用紙の両面印刷による紙の廃棄物の減量や、分別ボックスの設置による廃棄物のリサイクルの推進を行っている。 ・太陽光パネルを設置し、活動プログラムに環境学習を取り入れている。 ・南阿波サンラインアドプト事業等に長年取り組み、定期的な清掃活動を行っている。（令和３年に「四国道路ふれあい協議会長表彰」を受賞） ・主催事業の中で、ビーチコーミング（海岸に流れ着いた流木などでの工作）や海岸の清掃活動を行っている。
⑪その他 ・関係法令の遵守状況 ・情報公開請求への対応体制	A	・関係法令の遵守意識が全職員に定着している。 ・情報公開規定を整備している。
総合評価	A	・民間企業の経営方針を活用することにより、コスト削減やサービス向上に積極的に取り組まれている。 ・豊かな知識と経験を有した職員を配置し、海の活動を通した教育効果の高い事業等が実施されており、利用者からも職員のサービス等についての評価も高い。 ・利用者の安全第一の運営に基づき、感染症対策が行われているとともに、安全・危機管理体制も整っており、大規模災害時における避難所開設の対応もできている。

〈評価指標〉　Ｓ：協定書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
Ａ：概ね協定書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われている。
Ｂ：協定書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫や努力が求められる。
Ｃ：管理運営が適正に行われたとは認められず、改善を要する。

※　項目については、事業計画書と整合性をはかる。

９　その他（今後の課題及び対応等）

〈課題〉
〇少子化により教育課程における児童生徒の宿泊学習参加者数は年々減少しているため、それ以外の年齢層や各種団体等にも幅広く活用を進めていく必要がある。
〇開設から４０年を経て、施設の老朽化が目立つようになってきている。そのため、長寿命化計画の内容や安全面での緊急性などを考慮しながら計画的に施設の修繕をすすめていく必要がある。
〇食堂運営について、教育課程で来所した学校の昼食について人員不足で対応が難しいため、令和６年度から各学校でお願いしている。

〈対応〉
〇教育課程以外での利用者の増加については，施設改修による利便性の向上や県内外へあらゆる方法を駆使してＰＲを行い、青少年をはじめとする自然体験活動での利用の他、スポーツ合宿やグローバル人材育成のための合宿、企業研修等、幅広い利用の促進を図る。
〇地元(海部郡)との連携を一層強化し、利用者の拡大を図る。
〇地域の豊かな自然や人材などの特性を生かした新たな自然体験・環境学習プログラムを開発・実施することにより、利用の拡大を図る。
〇県と指定管理者との協議により、計画的に施設の修繕や修理、備品の更新を行っていく。
〇食堂運営については、可能な限り人員の確保に努めていく。